

弦楽合奏の夕べ

才能教育研究会京都支部弦楽団

No 1

プログラム

I. サンマルティニー

シンフォニア……………ト長調

アレグロ マノン タント
グラーヴェ
アレグロ アッサイ
メヌエット

II. ハイドン

ヴァイオリン協奏曲……………第1番ハ長調

アレグロ モデラート
アダージョ
プレスト

III. ヴィヴァルディ

チェロ協奏曲……………ホ短調

ラルゴ
アレグロ
レント エ エスプレッシーヴォ
ヴィヴァーチェ

IV. ヴィヴァルディ

合奏協奏曲 (レストロ アルモニコより) 作品3の9 ニ長調

アレグロ
ラルゲット
アレグロ

V. モーツァルト

喜遊曲……………ニ長調 K.136

アレグロ
アンダンテ
プレスト

指揮 ・ 井手章夫
独奏
ヴァイオリン ・ 上阪則子
東田 渉
セロ ・ 山田 昭

曲目解説

シンフォニア

ジョヴァンニ・バッティスタ・サンマルティニー (1701～1775) 作曲

独学で教会オルガン奏者となると共に教会音楽を作曲、後、器楽曲に興味を持ち、1734年に最初の交響曲を作曲、ミラノを舞台に活躍した。当時イタリアでは交響曲のメヌエットを第4楽章に置くことが多く、彼もこの形式をよく用いた。この曲は、第1楽章、後の3部分ソナタの形式を用いた古いバロック風の楽想、第2楽章、第3楽章への序奏的な短いグラーヴェ、第3楽章、ジークのような楽想、第4楽章、メヌエットからなっている。

ヴァイオリン協奏曲

ヨーゼフ・ハイドン (1732～1809) 作曲

1732年にオーストリアのローラウに生れ、少年合唱隊に入ったりしていたが、遠縁の者から音楽の手ほどきを受け、本格的な勉強を始め、オーケストラの楽長などしながら、作曲活動を行った。彼は1762年から69年までに5つのヴァイオリン協奏曲を書いたといわれるが、ハ・ト・イ長調の他は、彼の作であるかどうか、はっきりしない。第1番ハ長調は、いくつかの多くの主題が連続的に書かれており、彼のヴァイオリン協奏曲中、最も美しく魅力的である。

チェロ協奏曲

アントニオ・ヴィヴァルディ (1675～1741) 作曲

豊かな創作力であらゆる楽器の曲を数多く作った彼も、チェロの曲は極く少い。この曲の原曲は、作品14のソナタ6曲中、5番目のもので、従って、他の協奏曲とは構造がちがひ、他の協奏曲が弦楽合奏が主題を提示し、次に独奏の挿入部があって、最後に開始主題が合奏で反復されるのちがって、独奏のチェロが全曲殆んど絶えまなくその美しい音色で歌っている。

合奏協奏曲

アントニオ・ヴィヴァルディ (1675～1741) 作曲

非常に数多くの作曲をした彼は、弦楽合奏曲もまた沢山書いた。このレストロアルモニコは、12曲をセットとした合奏協奏曲であるが、彼自身でレストロアルモニコ (護和のとれた詩) と名づけたように、全曲美しい詩情にあふれている。レストロアルモニコは、1・4・7・10が4つのヴァイオリンのため、2・5・8・11が2つのヴァイオリンのため、3・6・9・12が1つのヴァイオリンのための協奏曲でこの9番や6番は非常に有名である。

喜遊曲

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756～1791) 作曲

1772年にザルツブルグで書いた3つの喜遊曲の1番目のものであり、その時代のエレガントな感じと、彼自身の成長を示す若さと才気にあふれた美しい曲である。第1楽章、後の弦楽四重奏曲と同じように、第1と第2のヴァイオリンをときどき応答的に歌わせている。第2楽章、情熱的で、感情的なほどに美しい。第3楽章、スタッカートとレガートの対照、陽気な第2主題を基にし、展開部を追復曲風に書いている。



弦楽団の生い立ち

戦後の混乱時代に鈴木鎮一氏によって提唱された才能教育法による子供たちの音楽教室が、各地に設けられましたことはすでにご承知のことと思います。京都でも10年前に、ヴァイオリン教室が生まれました。この活動によって、すぐれた子供たちのヴァイオリン奏者が、沢山できました。しかし、この子供たちの腕をふるうべき弦楽団がありません。そこで京都では、3年前にチェロ科を設け、ようやく昨年には弦楽団を結成することができたのです。結成後わずか半年にしかありませんが、過去10年間の子供たちの絶えまない努力が積み重なって、今日、初めて京都の音楽愛好家の皆さんに、ご披露することができるようになりました。この西日本で唯一の子供弦楽団を温く育ててくださるよう、ひとえにお願い申し上げます。

第1ヴァイオリン	上 阪 則 子	勝 馬 春 美	小 谷 明 司
	今 井 玲 子	木 内 真 人	中 村 克 敏
	大 森 美 子		
第2ヴァイオリン	東 田 涉	角 野 民 子	仲 佐 悦 子
	陰 山 知 子	小 谷 明 正	
ヴィオラ	新 井 覚	園 原 史 郎 (京 弦)	
	園 原 珠 美		
チェロ	山 田 昭	米 原 徹	武 藤 俊 介
	永 島 真 理 代		
コントラバス	森 田 昭 (京 弦)		

プロフィール

井手章夫

1927年京都市に生れる。

中学時代よりクラリネットをはじめ、のちオーボエ、指揮の勉強をし、1948年より6年間京都高校連合オーケストラの指揮者となる。またコンセールスウボウでオーボエを吹き、現在は京都弦楽団の指揮者として活動中、本職は加茂川中学校の理科の先生。



新井 覚

1932年長野県飯田市に生れる。

1944年松本市に移転し、鈴木鎮一氏に師事、9年間同門下でヴァイオリンの修業をし、1952年才能教育研究会京都支部指導者を命じられ今日に至る。室内楽を得意とし、中学時代より、セロの野村氏と共に弦楽四重奏団を組み、現在は京都弦楽団でコンサートマスターとして活躍している。



野村 武 二

1932年松本市に生る。

1950年よりセロを学び、翌年東京芸術大学セロ科小沢教室に入る。

1954年東京フィルハーモニー交響楽団に入団し、カザルス門下佐藤良雄氏に師事、翌年才能教育研究会京都支部に招かれ、現在子弟の育成に当たっている。





あなたの楽器に

Pirastro 弦を!!

古銘弦楽器HAMMAコレクション(独)より

新弦楽器 { KARL HÖFNER (独)
G. L. BISIACH (伊)
M. CAPICCHIONI (伊) 等

二輸入商二

合資会社 丸 一 商店

大阪市東区道修町2丁目21番地 TEL@4107

Violin, Cello 多数在庫!!

十字屋楽器店

Tel (2) 0575.3722.3548

レコードコンサートは
ステレオ Hi Fi 装置で!!

オンキヨー, 山水, パイオニア,
トリオ, クライスラー, コロンビア等

Hi Fi アンプ, スピーカーシステムで

株式会社 アサヒムセン

京・三条河原町上ル東入(朝日会館横)

TEL (3) 4475・7641



京都・四条

大丸

電 (2) 2121・3171・7171

書籍・文房具・楽器・レコ
ード・がん具など ・六階
婦人服お誂え・婦人服イー
ジーオーダー・婦人既製服
子供既製服・婦人はだ着・
子供はだ着など ・二階

お買物はみなさまの大丸へ



1959

11月20日(金)後7時

祇園會館

主催・才能教育研究会京都支部
後援・朝日新聞社京都支局